あ と が き

30分間水を放出せしめて，これをプランクトン・ネットを通過せしめることによって，予想される地下水中の生物の採集を試みた。このサンプルは現地で顕微鏡によって生物の有無を調べたところ，10本のサンプルのいずれにも生物らしいものの存在を認めることができなかった。

さらにこれらのサンプルをフォルマリンで固定して日本に持ち帰り，強力な遠心分離を行い，生物の有無を検鏡したが，やはりその中に生物の存在を認めなかった。

一般の都市の水道水についてみるに，同一条件のサンプルでも，地表水よりの浄化水道においては多数の植物性ならびに動物性プランクトンを混在しており，また地下水源の場合にも微小節足動物が混在している。それに比較するとカーブルの水源の水質ははるかに良好であって，窒素分の存在や地表水の混合を認めがたい。

一般にカーブル盆地のような地形においては，四辺の山の自然降水が汚染されても，それが地下水として地中深く入り，濾過され，盆地の底に停滞したときには，きわめて清潔な水となる。カーブルのみならずアフガニスタンの他の都市においてもこのような地下水の利用を考えるべきである。（カーブル以外では，ヘラートで水道建設工事が進められており，クンドゥズでも調査が行われている。勝藤）

7) 東京の１日１人当り使用量は夏では500ℓを越える。

8) アフガン人の月給額をいくつか例示しよう。私の家主（省の係長，42才）が800アフガニ（以下単位を略す）。内職として家屋の設計をしている。一般官吏の月給は500～1000で，1000以上の人は少数。ただし職種によっては西アジア一帯であまりにも有名な「バクシシ」が入る。カーブル大学教官には本俸のほか研究手当がつく。35才ぐらいの教官で本俸800，手当800，計1,600である。

民間労働者では，技術をもたず単純な肉体労働に従事するものを muzdūr といい，日給約20。技術をもつものは khalīfa の称号がつく。例えば家を建てる仕事についていえば，煉瓦を運ぶのは muzdūr で，それを受取って積み，壁を塗るのは左官（khalīfa gilkār）である。左官の日給は約60である。壁を積んでいる間に大工（khalīfa najār）は窓枠を作る。これは出来高給で，窓枠の横１mにつき約70。窓枠の大きさは色々だが，１日平均１mを作るから，日給は約70である。カーブルの街頭で２人１組になって角材を鋸で板に挽いているのをよく見かけるが，かれらは大工に雇われた muzdūr である。線１本挽くごとに４。１日約10本挽けるから，２人で40，１人20の賃金を得る。

なおドルとの換算率は１ドルが40～50アフガニである。

あ と が き

○ No. 12 を贈る。頁数の関係で彙報欄が飛びページとなって不体裁だが，会員諸氏の多彩な活動にあやかるように，本誌の内容も号を追うてますます多彩。○次号は会長足利惇氏教授の第63回ご誕辰を祝しての特集号。三笠宮殿下をはじめ諸先生のご論稿がいただける筈。副会長織田武雄教授の下に編集陣は健在，パリに赴任された編集長羽田明教授とも相呼応して悔いないものをつくりたい。会員諸氏のご期待を乞う。○本会に振替口座ができた（奥付参照）ので会費のご送付も便利になった。会費のご滞納が編集子には一番痛いのでよろしくご配慮願いたい。〔編集部記〕